
大好きだよ

なかこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大好きだよ

【Zコード】

Z5161A

【作者名】

なかこ

【あらすじ】

友達と行ったライブで、達也に一目惚れしたまい。まいは友達のユキに、達也のアドレスを聞きいてメールする事になった。それから、達也とはい感じ そして遂に達也と付き合う事になった。しかし、突然達也はまいとあまり会えないと黙りてきた。でも、それは…

高2の夏。私は、たつちゃんと出会った。

出会いは、友達に誘われたライブ。

たつちゃんは、ギターしてそれを見た私は、スグ一目惚れ。友達のユキに、たつちゃんのアドを聞いて即メール。

『初めまして まいっていります (*^-^) ヽユキからド聞いてメールしました よかつたら、メールしてください 』

ブーブーブーブー

携帯のバイブ音が鳴った。恐る恐るメールを見ると…たつちゃんだ

!!

『初めまして 達也つていいます。よろしくね (*^-^)ノ 』
やつた…！たつちゃんとメール出来る。そう思つとスゴく嬉しくて、
ユキに報告した。ユキはよかつたじん いっぱいメールして仲良
くなんな…！と言つてくれた。それからは、たつちゃんといっぱい
メールした。たつちゃんと遊びにも行つた。私の中で、日に日にた
つちゃんへの気持ちが増していくた。

「ユキいー、私たつちゃんの事ヤバイ好きだ…。」

「そんなんに好きなら告つちやえよ…！」

「えつ…」

「好きなんでしょう？他の女に取られてもいいの？？」

他の女に取られるのは嫌だ！けど、告つてフタれてもし避けられた
り、今までの関係より悪くなつたら…。そう考へると、なかなか告
れない。

考え過ぎ。

それが私の悪い癖。

こんな事言つてたら、いつまで経つても告れないって、わかってる
の…どうしても踏み切れない。

「ま、じゃあ、この前も結局告れなくて泣いてたじゃん？泣くんだつたら、いつその事告つちゃいなつて！で、もしフランアタシの胸でドーンと泣けつて！…」

ユキは笑いながらそう言つてくれた。だから、私はフランれる覚悟でたつちゃんに告ぐる事に決めた。

その日の夜、たつちゃんに電話した。

「もしもし、たつちゃん？」

「おう。どうした？」

「ちょっと話があつて…。今大丈夫？」

「大丈夫だよ。なに？」

「あのね、ユキとたつちゃんのライブ見に行つたじゃん？その時、たつちゃんがギター弾いてるところ見て、カッコいいって思ったの。それで、たつちゃんとメールしたりするつむじにどんどん好きになつていつて…。よかつたら付き合つてください…！」

「えつ…あ、えつと…実は俺も、まいの事好きだつたんだ。本当は、次遊んだ時に告ぐつと思つてたんだけど…先こされちゃつた。

」
たつちゃんは、笑いながら言つていた。「本当？！フランれるかと思つてたから、今泣きそくなくらい嬉しいよお…！」

その後少し話して電話を切つた。

次の日、少しニヤけながらユキの家へ行つた。

「何だよ～そのニヤけた顔…！アタシの胸で泣く必要なくなつた？」

「…うん。たつちゃんもね、本当は次遊んだ時に告ぐつと思つてたんだつて…！」

「よかつたじやん…！…じゃ、今日はアタシがおじつてやるから」

「飯食べ行こつ」

こういう時のコキは超好き（笑）それから1ヶ月。

私とたっちゃんは、メールは毎日しておるし電話もたまにしていた。学校帰りも、よくデートしていた。

ある日、こつものよつて学校帰りにデートをしていた時の事だった。

たっちゃんは急に

「あのや、実は明日から忙しくて、デートもあんまりできないんだ。」と言つてきた。

「そっか…。わかった。でも、明後日はつかりの1ヶ月記念だからデートしようね。」

「じゃ、明後日ウチで過ごそっか…。」

「うん！ そうしよ。」

たっちゃんの家に行ける！…そつ思つと嬉しくて、デートにあまり行けない。と言われた事なんて、その時は気にしていなかつた。私つて単純だなあ…

今日は、私とたっちゃんの1ヶ月記念日 学校帰りに、2人でケーキを買つてたっちゃんの家へ行つた。

初めてのたっちゃんの家。

たっちゃんの部屋は、ギターや楽譜が沢山あつた。汚くてごめん。つて言つてた割に、部屋は綺麗だつた。「適当に座つてて。『今皿持つてくるから。』

たっちゃんが皿持つてきて、2人でケーキを食べた。

その後、私はたっちゃんに香水をプレゼントした。すごく喜んでくれて、私も嬉しかつた。

「俺もプレゼントあるんだ。」

そう言つて、小さな箱を出してきた。そこには、ピアスが入つていた。そのピアスは、前に私が気になつていた物だつた。

「これつて、私が前欲しいつて言つてたヤツじやん…！…覚えてくれたの？」

「うん。覚えてたよ。」私は思わず抱きついてしまつた。そして、

キスをした。ケーキを食べたせいか、キスしたら甘い味がした。

2ヶ月後。私とたつちゃんは、メールや電話をあまりしなくなつた。放課後にテーートする事も…。でも、記念日にはちゃんとテーートしてくれる。だけど、3時間くらいしか一緒にいられなかつた。もしかして、たつちゃんは私の事を嫌いになつたのかな? そう考える時もあつた。ユキに相談したら、大丈夫だよ。最近、またライブやるみたいだから忙しいだけだよ。と言われた。そうなのかな?と不安になつたけど、忙しいだけだと自分に言い聞かせた。

「もうすぐ、まいの誕生日! ちやん!! もうひん、たつちゃんと一緒に過ごすんでしょ?」

もうすぐ私の誕生日だ…。たつちゃんは、誕生日について何も言つてこない。忘れてる? だんだん、不安な気持ちがこみ上げてきた。「どうしたの? たつちゃんと上手くいつてないの? ?」

私は、泣きながらユキにたつちゃんの事を話した。誕生日の事や、メールも電話もあまりしなくなつてどんどん、不安になつてきていること…。ユキは、何も言わず話しを聞きながら、私の頭をずっと撫でてくれていた。

「まいは、たつちゃんが浮氣してると思つてるの? それとも、嫌われてると思つてるの? ?」

「浮氣はしないと思つ…。多分、嫌われた。」

「でもわ、たつちゃんがまいの事嫌いになつたらもう、まいと別れてしまうと思つよ。」

ユキのその言葉を聞いた時、また涙が溢れてきた。

「たつちゃんに今、アタシに言つたことそのまま言つてみたら? たつちゃんなら、ちゃんと話し聞いてくれるつて…!」

「…ひん。」

その日の夜、たつちゃんにメールした。

『明日会えないかな？話したい事があるんだけど…。』

1時間くらいして、たつちゃんからメールがきた。

『「じめん（^__^）明日は、予定あるから会えない

電話じやダメだ』

『会えないならいいや（^__^）また今度にする。』

と返信した。たつちゃんから、本当に『じめん（^__^）』とメールがきた。

次の日、ユキに昨日の夜の事を話した。ユキは、まごよりも優先する予定なんてあんのかよ！！バカ達也！！！と言っていた。けど、最後に『でも、たつちゃんはバカだけど裏切つたりは絶対しない人だから。信じてあげて。』って言われた。

裏切つたりしない。信じてあげて。

ユキに言われて、少しだけど不安が消えた。やっぱ私にとってユキという存在はおつきいなあ。と思つた。

明後日は、私の誕生日。

たつちゃんとは、あれからメールしても2通くらいで終わってしまった。電話は全くしてないし、データも4・5回しかしていない。

ブーブーブーブー

急に授業中にメールがきた。誰？と思つてメールを開くと、たつちゃんからだつた。

『明後日ヒマ？俺らライブやるんだけど、来れないかな（=^__^=）』

『』

明後日は私の誕生日だつてわかつて、メールしてゐるの？つて思つた。けど、たつちゃんと会えると思うと嬉しかつた。

『ヒマだよ（*^__^*）何時からやるの？』

『8時からじゃ、待つてるね（*^__^*）』

ユキにその事を話し、一緒に行く事になつた。

ライブ迎田。初めてたっちゃんを見た場所。ここに、たっちゃんに出来たんだなあと思つたら、あの時の気持ちが蘇つてきた気がした。

ライブが始まり、会場も次第に盛り上がり始めた。たっちゃんのギターを弾いている姿は、いつにもましてカッコよく見えた。そして、ライブも終わりに近づいてきた。でも、突然ボーカルの人人が「この中に今日、誕生日を迎えた人がいます！！その人は、達也の大事な人です。その人のために、これから達也が頑張つて歌います。」

「たっちゃんは、照れながら前に出てきて

「まい！！誕生日おめでとう。今まで、メールとか電話とかあんまり出来なくてごめん。でも、今日はまいのために頑張つて歌うから！…聞いてください。」

そう言つて、たっちゃんは私の1番好きな歌を歌つてくれた。歌つてたっちゃんは、今まで一番カッコ良くてもっと、もっと好きになつた。

ライブが終わつて、ユキも帰つた。その後たっちゃんに会つた。

「たっちゃん！ありがとう。スゴい嬉しかつたよ…。惚れ直したよ。」
「たっちゃんは、少し照れて下を向いた。
「今まで、会えなくてごめん。実は、まいにプレゼント買おうと思つてバイトとかして忙しかつたんだ。」
この時、信じてよかつた。と思つた。「これ、ペアリングなんだけどサイズ合つかな？」
と言つて、指輪をはめてくれた。嬉しそぎて涙が出てきた。たっちゃんは、ギュッと抱きしめて

「これからもずっと一緒にいよひなッ。」つて言つてくれた。私はたっちゃんにキスをして言つた。
「ずっと、ずっと一緒に 大好きだよ…。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5161a/>

大好きだよ

2010年11月9日20時16分発行